

中国（南京）指導報告 2014年3月2日（日）～3月9日（日）

平井 亮輔

私が南京の柔道指導で感じたことは、皆、柔道が好きで心から楽しめているということでした。また、日本の柔道を尊重しており、礼儀作法をきちんと行っていたことに感動しました。

初日では、南京体育学校の男子と乱取稽古を行い、中国の柔道のレベルが高いことを感じ、皆柔道のはじめから最後まで一切手を抜かず、一生懸命柔道をしている姿にただただ素晴らしい柔道家だと感じました。また、練習の雰囲気もよく、柔道が好きだという思いが伝わってきて私たちも見習わなければいけないと思いました。



男子練習風景

2日目以降は、女子柔道部に技術指導、南京小学校での受身の指導と体捌きの指導、夜に行われた初心者の柔道の練習でも、技術指導を行いました。

女子には、「内股」「体落とし」の指導を約2時間行いました。私たちは、前襟を持って指導したのですが、女子は奥襟を持つ選手が多く、選手たちが「奥襟を持った技の入り方はどうすればいいのか」と自発的に聞きに来ました。やはり、意識の高い選手が多いことに指導のやりがいを感じ、私たちも必死に指導にあたりました。指導していく中で、言葉が通じないもどかしさを感じ、もっともっといろいろなことを教えてあげたかったと少し後悔が残りましたが、皆、ひとつの形を吸収してくれて、ジェスチャーなどでわかってくれたことに嬉しさを感じました。

南京小学校では、柔道着がない児童たちに受身、体捌きを指導しました。まず、柔道着がないということに驚きました。日本では当たり前柔道着を着ていることは、世界各国では当たり前ではないことにもっと柔道着を着ていることに感謝しなければいけないと感じました。小学生たちは、畳に上がる前、必ず、脱いだ靴を揃え、畳の前で一礼し畳に上がる光景を見て私は感動しました。日本の礼儀をここまでしっかりと伝えている、常東先生に感謝し、それをしっかり動作として身につけている子供たちに感動しました。受身の指導でも前回受身ができない児童のために、手本を見せて受身の形を真似して行ってくれ

たことは嬉しかったです。なにより、受身や体捌きだけでも柔道を楽しんでいてくれたことがとても嬉しかったです。

初心者の柔道指導では夜の7時～9時まで行いました。月曜日・水曜日・金曜日・土曜日の4回の技術指導で「大内刈」「大外刈」「体落とし」「内股」「連続技」を指導しました。基本的に毎時間約1時間の技術指導だったので、わかりやすいように大切なポイントをおさえた指導を心がけました。常東先生の通訳があったからこそ行えた指導でした。初心者はやはり、始めは形も足の位置もバラバラで、個別的に一緒に動作を確認しながら行ったり、全体に共通するポイントは全体を通して指導したりと、色々、試行錯誤しながら行えた指導だったと思います。また、言葉が通じないことが嫌だったので、簡単な中国語を交えながら指導にあたったところ、皆から笑顔があらわれ、必死に取り組んでくれたことに嬉しさがこみ上げました。初心者を教えることで指導の難しさを痛感したし、言葉があまり通じないということでもどかしさがありましたが、みんなが楽しそうに柔道と向き合ってくれたことが、指導の楽しさと感動を私に覚えさせてくれました。

また、3月で中日友好南京柔道館が4周年ということで記念式に参加でき、日本と中国が柔道を通じてこれからも「友情」「平和」をモットーに発展して行ってほしいと強く思いました。



女子柔道部と練習後記念撮影



南京小学校での受身の指導



初心者への「内股」指導



中日友好南京柔道館 開館4周年 記念撮影

また、南京の歴史を学びに「南京大虐殺博物館」「南京博物館」「中山陵」に行きました。私が一番印象に残ったのは「南京大虐殺博物館」でした。ここでは、戦争の怖さ・虚しさ・残酷さを目の当たりにして、とても悲しい気持ちになりました。また、世界ではまだ、お

おくの戦争や内戦をする国があることに「やめてほしい」という願いがより一層増しました。やはり、戦争は起こすべきものでないと強く感じました。博物感を見て心がとても痛くなかったが、良い勉強になり、平和が一番ということを感じることができたので良かったです。

柔道を通じて、これからもっと世界との平和が増え、また、世界との友情が増えることを望みます。

今回、柔道の指導でこのような貴重な体験をさせて頂きほんとうにありがとうございました。私自身これから指導者の立場になるので、もっといろいろな勉強をし、「柔道・友情・平和」を心がけて指導していこうと思います。

ありがとうございました。



南京大虐殺博物館にて



お世話になった常東先生